

おわりに

この度は京都大学藤子不二雄同好会の会誌を手にとっていただきありがとうございました。新型コロナウイルスの影響により普段通りの11月祭を行えないこと三年、会誌をこのように紙の形にてお届けできるのも3年ぶりということになりました。

今回も会員の方々よりたくさんの寄稿を得ることができましたが、どうだったでしょうか。同じ藤子不二雄好きが集まるサークルとはいえ、好みの傾向は人それぞれで個性溢れる記事になっていることと思います。普段の活動において会員の方と話していると感ぜられますが、会員の興味関心はそれぞれ異なっています。例えば『ドラえもん』という作品ひとつとってみても、原作が好きな人、アニメが好きな人、映画が好きな人、など様々で、またある一つのエピソードを取っても、そのどういうところに惹かれるかということも人それぞれでしょう。会誌を通じて自分とは違った視点から作品を見つめ直すとともに、自分が好きなのは何であろうか、何処であろうかということを考える機会にもなるかと思えます。

さて、私がこのサークルに入って早いもので4年が経過しました。コロナウイルスの流行を境にサークル活動の内容も大きく変わり、対面での活動は縮小せざるを得ない状況が続いています。そんな中でも人が集まり、オンラインが主ではありますがサークル活動が継続できていおり、藤子作品の持つパワーを感じさせてくれます。当サークル或は本誌を通して藤子作品の魅力がより広く伝わっていくことを願っています。

前会長 京都大学文学研究科修士一回生 山口聡太